



三星会の自社ブランドの包」に内付  
けする様子。最後はベテラン職人の手  
業が欠かせない=岐阜県関市下有知

700有余年の刀鍛冶の伝統を有する岐阜県関市には、その流れをくむ老舗の刀物企業が何社もある。

1873(明治6)年創業の三星刃物もその一つ。現社長の渡辺隆久さん(58)の曾祖父が刀鍛冶から生活用の刃物産に転業したのが始まりといつ。第2次大戦後はいち早く海外に狙いを定め、良質のナイフなどを米国で販売。他社ノーランドの受託生産専門で、刃物輸出の最大手に成長した。だが1985年のプラザ合意後の円高で経営環境は一

「自社製品がないの?」と言わ  
れた。本当の料理好きが欲  
しがる包丁を作ろうと決め  
た。

は1908(明治)の貝印グループも、庭用品など扱う商品アイテムにのぼるが、それはカミソリ、巧な刃を作れる企業である。貝印のカミソリ、「カイ インダス」、社の関市の小屋名古月に7千万枚を生産だが近年は「多岐など各社の競争は

41) 年創業 そうだ。家 品は1万ア イ、よく知ら 薄くて精 素は限られ トリー・ズ トリー・ズ 上場では、 産する。 激しい。そ 校刀競争

「野鍋治の精神」と呼ぶ  
「どんな人とも会い、使い  
に合わせたものを作る」  
市の資料によると、関の  
物類の国内シェア（201  
年出荷額）は包丁（47%）  
ナイフ類（53%）、理髪用  
物（74%）などがいずれも  
1位。蓄積された技術に裏  
ちされた新たな発想が「刃  
日本一の町」を支える。

## 伝統刃物 技重ね新商品

も  
し  
た

中国への工場移転を進める方で打ち出したのが、初の自社ブランドの包丁開発だ。

AGOMI】シリ、  
発売した。1万円。  
だが有名ホテルで  
今は注文から3カ月  
気だという。「関  
約した、妻と私の  
辺社長は話す。

ズとして、前後の価格も使われ、月待ちの人も技術を集め、「合作」と渡り上げる。多様な形状や機能が求められる医療用刃生産を支えのは、カミソリで培った高精度の刃先の加工技術だ。同社は、山田正吉専務(2)によれば、

山田克明常務(62)は、「野鍛冶の精神」と呼ぶ「どんな人とも会い、使いに合わせたものを作る」市の資料によると、関の物類の国内シェア(2011

ると紹介。3年前

に「和」N ここで比重を増しているのが